

2017年開幕前研修会を開催

3月12日に松島フットボールセンターを会場に、2017年開幕前研修会を開催しました。

開幕前研修会は4月から始まる本格的なシーズンを前に県内で開催される各種大会へ派遣される審判員を対象として「競技規則の確認」「実践的なスキルの向上」を目的としている研修会です。

今回の研修会は「グループワークによる映像分析/ディスカッション」「チュータリング(主審と副審の協力、オフサイド)の受講参加」「プラクティカルトレーニング(主審と副審の協力、オフサイド)」を実施しました。



塚本 恭一 3級審判員 コメント

午前中のグループワークでは、PAからのカウンター攻撃で一気に攻守が逆転し、Rが追いつけない状況でのファールという、場面展開とファールの発生場所からRとARの連携が必要とされる良い例でのディスカッションと講師との意見交換が行なえた事は参考となりました。同様に、PKからのオフサイド判定についてのディスカッションでも異なる意見の優劣をつけるのではなく、尊重し否定せずに問題点を掘り下げていく講義は大変良かったと思います。

実技では、己のプレッシャーに対する弱さ、同時多発事象に対する瞬時の判断力の欠如は大いに反省させられる点であります。

一方、映像撮影によるオフサイドの判断については、特に足首部分までの視野判断が欠けていることがわかり、アドバイスも頂戴したことで参考となりました。2017年度を迎えるにあたり、RとARの連携の重要性を認識し、選手が大いにパフォーマンスを発揮できるレフェリングを目指したいと考えます。ありがとうございました。

作間 智裕 3級審判員 コメント

3級審判員として2シーズン目を向かえる私にとって、知識の習得はもちろんのこと、再確認することが多くありました。グループワークでは、ペナルティエリア付近でのファールの映像を用い、副審はどのようなサポートをすることができるかについて、他の審判員の意見や他のグループの発表を聞いて「なるほど！」と思うことが多々ありました。主審と副審の協力では、対角線式審判法の利点を生かし、副審は必要な時に必要なサポートをすることで判定ミス未然に防ぐことができ、スマートな判定に繋がることを再確認しました。

また、プラクティカルトレーニングでは、タッチジャッチやファールサポートについて、主審、副審のそれぞれの位置からどのように見えており、どのような協力ができるかを確認し、主審は「自分が判定する」という気持ちで判定し、副審の情報を活用しながら正しい判定をしていくことが大切だと感じました。

新シーズンを向かえるにあたり、モチベーションが高まり、意欲的な審判活動に繋がる研修になりました。